

取上テ拜見セラレシカバ、御詠ニハアラデ桃花盛ト云題ヲシルサレタリ、○下

〔賴言卿記〕寶曆十二年五月十九日辛巳、今日冷泉民部卿、五十年滿被賀ニ付、送盃臺一基添詠歌、盃之包紙ノ書也、以盃包紙奉書、

くみかはし老をば松の木の花にめぐる盃千代も手にとれ

〔俗耳鼓吹〕天明元年辛丑、小石川布施氏註の宅、江洲崎望陀蘭の主祝阿彌を招請、獻立略○中

盃臺銘月すり出し 尾州寸方 まきみ菊

〔大江俊矩記〕文化五年二月五日辛未、差次藏人入來、近衛殿獻物之事示談、御盃臺大サ三尺二寸五分、洲濱形但繰形 近衛殿生松ニ作り花ノ紅梅蠟引根笹あしらい、尉と姥ノ人形大サ六寸 木地 顔衣裝付金銀盃添

大三方ニ居、總入用金壹兩也、尤盃ハ白檀紙ニ包、小捻ニ而結、勿論すはま三方共まさニ而ハ無之、板目之由、花林ニ分仕立、十日中ニ出來之筈也、

〔萬代狂歌集六〕人のもとにて、つゞみの筒のかたちせる、盃臺を出しければ、四方赤良

酒のうへ大平樂はいはずして万歳樂とうつ舌つゞみ

〔數寄道具定直段附〕盃臺青 銀四兩 同織部風 同 銀五兩

〔數寄道具定直段附後篇〕塗師宗哲

朱盃臺 拾七匁五分

盃雜載

〔續日本紀十二〕天平八年十一月丙戌、從三位葛城王從四位上佐爲王等、上表曰、臣葛城等言、○中 和銅元年十一月二十一日、供奉舉國大嘗、二十五日、御宴、天皇元譽忠誠之至、賜浮杯之橋略○下

〔萬葉集五〕梅花歌三十二首并序略○中

波流ハルヤ楊ヤ奈ナ宜ギ可カ豆ヅ良ラ爾ニ乎ハ利リ志シ鳥ウ梅メ能ノ波ハ奈ナ多タ禮レ可カ有ウ可カ倍ベ志シ佐サ加カ豆ヅ岐キ能ノ倍ヘ爾ニ壹壹岐岐目目村村

〔萬葉集七〕旋頭歌略○中